

<牧会ミニ通信> No.12      2020. 7. 12

牧会ミニ通信も気付けば、No.12となりました。始めた動機は悪性コロナの影響で合同礼拝が叶わず、互いが疎遠となりましたので、皆さんへの御挨拶と牧師の近況をお知らせすることにありました。

それまで、知遇のない牧師と周東のぞみの皆さんと出会ったのは一年前でした。礼拝後にお互いの挨拶はありますが、それを除けば交わる機会はさしてありません。

牧師が日頃は何を考え、何を思い、何を感じて暮らしているのか、そうした身近雑話をお伝えして、疎遠な関係を少しでも縮めることが出来ればと願い、「牧会ミニ通信」を始めた次第です。

梅雨の時期になりました。それでも、つとめて朝早く、近所の田んぼ道を散歩することにしてます。雨降りの中でも、「くる朝ごとに、とるわがつとめ、ひとをあいして、おのれに勝たば、かみにちかづく身とこそなれ」(讚美歌23番の3)と讚美しながら足腰を耐えています。

朝食が済めば、埼玉の妻に電話します。わたしは旧約聖書原文を数節読み、妻は同じ個所の英語聖書を読みます。英語聖書と日本語聖書との訳の違いを比べて楽しく学んでいます。それが終わると、「新聖歌」の讚美、それから、主が新たな日を与えてくださったことを祈り、その日のスケジュールを確認します。全部で約30分位でしょうか。

「主のために祭壇を築いて、主の名を呼んだ」(創世記12:6)一、信仰の父アブラハムの日々祭壇を築いた習慣を思います。

詩編23の御言一語一語を噛みしめる年齢となりました。

「エホバは我が牧者なり われ乏しきことあらじ。エホバは我をみどりの野にふさせ いこいの水濱にともなひたまふ。なんぢわが仇のまへに我がために筵をまうけ わが首にあぶらをそそぎたまふ わが酒杯はあふるるなり。わが世にあらん限りはかならず恩恵と憐憫とわれにそひきたらん 我はとこしへにエホバの宮にすまん」。(文語体使用)

周東のぞみキリスト教会：牧師 結城 晋次